

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすら木の家」に合わせた「きょうを・すてきに・らくに・やさしく自分らしく暮らしましょう。愛と自由があるこの家で～地域の福祉と共に育つ、大きなやすら木となれ～」という理念を利用者さんと一緒に考え、その中のお一人に大きく書いてもらい、みんなの集まるロビーに掲げています。	○	前回、地域密着型を意識した言葉を理念に取り入れるよう指摘があったので、改善しました。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	素敵で優しく楽な毎日を過ごしていただくために何が出来るかを考えて、サポートしています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々へ事業所独自では発信しにくいので、地域包括支援センターの方にも関わっていただきながら、少しずつ浸透させていきたいと考えます。	○	運営推進会議への参加依頼を地域の代表者に継続してきます。また近隣地域の方々にも講演会等を通じ、認知症についての理解を深める活動を行いたいと考えています。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員の出・退勤時にあいさつを交わす。また自家製の野菜（大根や野沢菜等）を届けていただいています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園から毎年運動会へ招待していただいています。またここに住所のある入居者さんは敬老会に招待いただき、毎年参加しています。	○	昨年秋に「やすら木の家写真展」を開催しました。近隣の方やご家族に普段のやすら木の家姿を見ていただけたのではないかと思います。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	地域包括支援センターとの連携を強めていきたいと思っています。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	理解できていない職員等に伝える場（内部研修）を設けたいと考えています。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	職員間で気軽にコミュニケーションを取れる環境作りを目指しています。「虐待」について話し合う機会も設けていきたいと考えます。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外にも時間を設け、利用者さん本人や家族と話し合いをしています。また重度化についての説明もその都度家族と話し合いの場を設けています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所を開放し、いつでも気軽に相談できるよう努力しています。また松本市の介護保険相談員に毎月来訪してもらっています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日の生活記録「今日の私」から読み取り、ケアプランに基づいて「今月の私」「やすら木だより」といった通信物を毎月1回家族に向けて発行している。面会の際は、近況報告をしています。金銭管理は、金銭出納帳を確認いただいています。	年に1回職員を紹介するやすら木だよりを作っています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「今月の私」に意見を書いて、返送していただいています。また、家族面談の機会を設け、様々な意見交換をしています。	○ これからも家族面談の機会を増やしていきたいと思っています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年末に全職員に介護や待遇等についてのアンケートを実施の上、介護事業部の責任者等と個人面談を行いました。	○ 現場でも毎月行うカンファレンス以外にも話し合う機会を設けて意見交換をしていきたいと考えています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出時・緊急時は都合のつく職員を手配し対応しています。また行事等を考慮してシフトを作成しています。	

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	各ユニット専属、各利用者担当といった細かい縛りがなく、日常的な行き来があるので、勤務変更等についての大きな混乱は招いていません。	年に1回職員を紹介するやすら木だよりを作っています。
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修費の援助も含め、積極的に外部への研修に参加させています。また研修についての報告をカンファレンス等を通じ職員に報告しています。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡会等に参加し、他事業所との情報交換を行っています。	○ イベント等を通じグループホーム全体の交流ができるように努力していきたいと考えています。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	話し合う機会を設けています。できるだけ何でも言い合える環境作りに努めています。	○ 相談窓口を一本化し、現場で抱えている問題を掌握できるように努めています。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	出勤状況や勤務にあたっての熱意や努力に応じ、給与査定を行います。また、職員が仕事をする上で大切に思うことや会社に対する思いを聞き取り、話し合う機会を作っています。	

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご本人に会い、生活の様子を確認します。その人らしさを知るために自宅に出向くようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設の見学は随時行っており、相談に対しても担当者が対応しています。またご家族とその都度話をして、相談に応じています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人と家族にとって最も良い生活を考えて支援するようにしています。また本人も含めた話し合いの場を設けています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を利用していただいて、少しずつ馴染んでいただけるようにしています。また利用者ご本人の今までの生活リズムを大切にしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者さんに相談し、経験から基づく様々なことを教えていただいたりしています。特に漬物作りなどは、一緒に手伝っていただいています。	○ 残存機能に応じて臨機応変に対応していきたいと考えています。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時に様子をお伝えしています。また日常の表情を撮影したものをアルバムにして、いつでも閲覧できるようにしています。	○	運営推進会議やイベントへ参加してくれるご家族の方が増えてきました。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の間に入り、希望や要望を伝えたり、家族の思いを代弁するなどしています。認知症の症状が進み、会話が成り立たないこともありますが、時間をかけて話を聞き本人の思いを聞き取るようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐かしい場所に出かけたり、友人への電話や手紙、友人の来訪時はおもてなしのサポートなどの支援に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係の把握に努め、支障の無いよう職員がサポートに入っています。発語のない方にも常々話しかけることで表情を読み取るようにしています。	○	利用者の方に他の方の状態をしっかりと説明していくことも大切だと感じています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時にはお見舞いに出かけています。また亡くなった以前の利用者さんの葬儀に参列することもありました。		

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望を聞きとれるようにしています。また、その場では解決できない問題があれば、事務所等でしっかりと話を聞き、家族へ意向が伝わるよう努めています。	○ 本人と家族の意向に差異がある場合、解決までにかかりの時間を要します。施設職員の中立ちだけでは解決が難しい事例もありますので、こうした問題に対して行政等が関与してくれると助かります。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーを通じ、以前のサービス等の情報提供を受けています。入居時のアセスメントで経歴等を伺い、閲覧できるようにしています。	○ 職員全員が情報共有できるよう努めます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	会話の中から、本人の心身の状態や悩み等を聞きとる努力をしています。体調面は毎朝バイタルチェックを行い、異変があれば、医療機関を受診しています。症状をうまく言葉にできない方もいるので、会話しながら全身観察を行うこともあります。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の気付きを共有し、カンファレンス等で様々な意見を聞いた上で、ケアプランを作成しています。家族には、毎月ケアプランやそれに伴う日々の様子を報告し、意見を求めています。	○ 家族の意向を伝えてくれる方は、ケアプランに反映させることができるのですが、全く意見がない家族に対しての働きかけに力を入れていきたいと考えています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月行うカンファレンスで、介護計画の見直しを行っている。また、変化や問題が生じた場合は、その時点でカンファレンスを行えるよう調整し、必要なケアが行えるよう、計画を見直し・変更しています。	

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『今日の私』という個別の日報および各ユニットの申し送りノートを活用し、情報の共有に努めています。日々の業務の中で、記入ができないこともあるので、聞き取りする時間も作っています。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整え、終末期に向けての体制を作っています。医療面では看護職員が同行し、日々の状態を正確に伝えられるようにしています。また、ドライブや外食、買い物といった要望にも適宜対応しています。	○	周辺医療機関への受診のサポートに力を入れていきたいと考えています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊時の協力や防災訓練、慰問等で警察・消防・学校等との連携はできています。ボランティアも音楽や傾聴・野菜の差し入れ等少しずつ関わりをもってくれる人が増えてきました。	○	地域には働きかけをしていますが、事業主体が民間企業のためか、民生委員等はなかなか接点を持つことができていません。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の購入や在宅に戻るための支援等、ケアマネジャーを通じ、本人の意向に沿うよう連絡を取り、支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっています。認知症についての講演の場を提供してもらったこともあります。	○	包括支援センターと連携し、地域の関わりの大切さを周知していけたらと考えています。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>契約時に終末期の話はしていますが、長く利用されている方の家族と再度、終末期に対する話し合いの場を設ける予定をしています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>『看取り』について、職員間でもっと深く話し合う機会を設けたいと考えています。</p>

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメントやケアプラン、施設での日々の様子等情報提供し、住み替えのダメージを最小限にできるよう努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は本人の目につかないところに保管しています。言葉遣いも利用者さんに応じた使い分けを心がけています。	○	細かな気配りができるように日々努力していきたいと考えています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	丁寧に説明したり、職員の意見を押し付けないようにしています。	○	なにげない会話で要望が聞きだせるよう努力するとともに、ゆっくりと耳を傾け会話をする時間を作る努力をしています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者さんの希望に沿うよう努力しています。一人ひとりのペースに合わせることは非常に難しいですが、できる限り支援したいと考えています。	○	外に出てしまわれる方については、その方の希望より安全を優先させることがあります。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば、家族に連れていってもらっています。特に希望の店舗等がなければ、訪問の理美容を活用したり、近隣の店舗に行っています。衣服は、本人と買い物に出かけ、自分で選んでもらっています。	○	介助に入りにくい方には、言葉を選びながら整容の介助に入るようにしています。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>食事の時間の会話をもっと取り入れたいと考えていますが、利用者さんによっては、それをよしとしない方もいるので配慮しながらやっていきたいです。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>排泄パターンをしっかりと把握できるように努力していきます。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>個々の楽しみを聞き取り、その希望や要望に応じられるよう更に努めていきます。</p>

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は自己管理をしてもらっています。	○	管理が難しくなっている方もいるので、職員がサポートしながら行っています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望にすぐ応じることは非常に難しいことですが、外出の希望にはできる限り対応しています。	○	買い物に出かける際には声をかけ、外出を促しています。突発的な外出には、安全を最優先し、必ず付き添っています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや外食等、時間を作りみんなで外出するよう支援しています。家族との外出の機会を作っただけのよう、声をかけています。	○	個別の外出に対応できるよう努力していきたいです。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙、電話等本人の希望に応じ、支援しています。また、家族にも手紙や電話でのコミュニケーションを依頼しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも気軽に訪問できるよう、特に面会時間を設けていません。職員も来訪者が心地よく過ごせるよう努力しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は何があっても行いません。	○	全職員が理解できているようにしていきたいと考えています。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	突発的な外出には必ず付き添えるよう、万が一のことを想定し、GPS携帯を持っていただいています。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	救命救急講習へ積極的に参加していきたいと考えています。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	救命救急講習や防火管理者講習等を受講し、非常時に対する意識改革に取り組むと考えています。また運営推進会議で地域の方から、一般家庭では対応できない大型機材の備蓄などを求められましたので、準備を進めています。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	危険を回避したうえで、自由な生活を送っていただけるよう努力しています。問題が発生しそうな場合は、家族に連絡し最善策を協議しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を感じた場合はすぐに看護職員に連絡し、その後の指示を仰ぐようにしています。連絡を受けた看護職員は医療機関と速やかに連絡を取り対応を指示しています。その際、状態を記録し、急変時に対応できるようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が管理しています。起こり得る副作用等については口頭・申し送りノートへの記入で説明しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を中心とした食事作りを心がけ、朝の体操や散歩等の運動を基本に、できるだけ薬に頼らない排便につなげられるよう努力しています。また排便チェック表を用いて排便の状況を確認し、便秘による影響がでていないかチェックしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の意思や能力に応じて、声をかけたり介助を行っています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をだまかに記録し、体重や日々のバイタルチェックと併せて健康状態を把握しています。食べやすい食事作りや声かけ・会話による水分摂取等にも努めています。	○	楽しめる食事の提供に努めたいと考えています。また長野にある事業所には栄養士が配置されていますので、連携しながら栄養管理をしていく整備をしています。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ワクチンで対応できる感染症については、可能な限りワクチン接種をしています。特に流行の時期にはカンファレンス等で対応の徹底を呼び掛けています。また、ノロウイルス消毒用のセットを揃え、すぐに対応できるようにしています。	○	全職員が理解できているようにしていきたいと考えています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔を保ち、食材の鮮度にも留意しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺にスロープやベンチを設け、どなたでもお迎えできるようになっています。日中は施錠せず、閉ざされた空間にならないようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間も清潔に保ち、安全で使いやすい場所になるようにしています。懐かしい音楽をかけたり、花を飾ったり、アルバムを置き、会話が生じるよう工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のベンチや事務所前のソファ、各ユニットの和室等居室以外でも楽しくくつろげる場所を設置してあります。	○	暖かくなるとテラスを利用する方もいるので、テラスを安全に使っていただけるようにしていきたいと考えています。

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	押入れ以外の家具はすべて利用者さんの使っ たものを持ち込んでいただいています。家族の写 真を飾っていただいています。	○	安全に配慮した模様替えも、本人と相談の上、 行っていきたいです。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	清掃時には各居室の換気に努めています。また館 内の温度設定は利用者さんの様子を見ながら調整 しています。トイレはまめに洗浄し、においが出 ないようにしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりやスロープを設置し、安全に自立した生活 ができるようになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	職員と一緒に作業を行うことで、混乱や失敗をし ないようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関前のベンチやテラスで涼を取ったりする方も います。畑で野菜作りをしたり、花を植えたりし ています。また、玄関前の空間で食事をするこ ともあります。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームやすら木の家・けやきユニット

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

『家』で暮らしているような、明るく束縛されない穏やかな生活を送っていただいています。会話によるコミュニケーションを介護の中心に据え、職員は介護の提供者ではなく生活を支えるパートナーとして、そっと寄り添えあえる関係作りを心がけています。